

学習院大学

荒川 一郎  
あらかわ いちろう

学習院大学 学長



井上寿一前学長の任期満了に伴い、2020年4月1日付で荒川一郎理学部教授が学長に就任した。

荒川新学長は1952年東京都生まれ。1976年東京大学工学部物理工学科卒業。卒業後、日本真空技術株式会社勤務。1984年学習院大学理学部専任講師。1994年同教授となり、現在に至っている。同大学においては、副学長、理学部長等、要職を歴任している。専門分野は表面物理学、真空科学で、著書には『応用物理実験学』（分担執筆）、「物性物理学ハンドブック」（分担

執筆）、「真空科学ハンドブック」（編集委員長）などがある。日本真空学会会長、日本表面真空学会会長も務めた。大学運営においては、全学

生が一つのキャンパスで学ぶという学習院大学の特長を生かし、文理融合型の全学共通科目の策定を行うとともに、IT教育、情報通信環境の充実を目指し、改革を進めていく。

学生には、学習院歌にもある「真理と平和」を目指すとともに、コロナ後も見据え、社会や人類に貢献することができる人間になってほしいと話す。

皇學館大学

小串 和夫  
おぐし かずお

学校法人皇學館 理事長



佐古一洵前理事長の辞任に伴い、3月26日付で理事長に就任した。

小串新理事長は三重県桑名市出身。昭和41年3月に本学文学部国史学科を卒業。再興後の1期生にあたる。その後、乃木神社、多度神社（現・多度大社）、熱田神宮の宮司に就任し、現在は熱田神宮名誉宮司。平成12年からは愛知県神社庁長、平成22年からは神社本庁副総長を歴任した。

昭和58年に本法人大学評議員に就任して以降、平成10年に理事、同11年に常任理事、同15年からは副理事長を

務めた。

皇學館大学は、明治15年、神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達によって、神宮の学問所である林崎文庫に開設された「皇學館」を直接の起源とし、伊勢の神宮における長い神道研究の伝統を継承している。令和4年に創立140周年を迎えるにあたり、平成26年度に策定した「皇學館大学140教育研究ビジョン」を達成するため、「第2中期行動計画」（令和2～6年度）を遵守し、学生、教職員が一体となり本学の教育と研究と学びの改革・充実に取り組みたいと抱負を述べている。

## 国際基督教大学

### 岩切正一郎

国際基督教大学 学長



国際基督教大学（ICU）は、国際的社会人としての教養をもって、神と人ともに奉仕する有為の人材を養成することを目的として、1953年に開学した。

このたび、日比谷潤子前学長の任期満了に伴い、岩切正一郎教授が学長に就任した。任期は2020年4月1日から2024年3月31日まで。

新学長は1959年宮崎県生まれ。1983年東京大学文学部フランス語フランス文学専修卒業後、同大学大学院人文科学研究科仏語仏文学専攻修士課程を修了、博士課程を満期退学。その後1993年

に、第7大学テキスト、資料科学科第三課程を修了。東京大学助手を務めた後、1996年に本学人文科学科助教授として着任し、2001年から準教授、2007年からは教授を務めている。学長就任までにアドミッションズセンター長、教養学部長を歴任。専門分野はフランス文学、演劇。著書に『さなぎとイマーゴ』ポルトレールの詩学（書肆心水）、翻訳に『カリギュラ』カミユ著、ハヤカワ演劇文庫。他、日本を代表する演出家、俳優による多くの舞台の戯曲翻訳を手掛けている。第15回湯浅芳子賞（翻訳・脚色部門）受賞。

## 甲南大学

### 長坂悦敬

学校法人甲南学園 理事長



吉沢英成前理事長の任期満了に伴い、4月1日付で長坂悦敬前学長が第14代理事長に就任した。任期は4年。

長坂新理事長は、1958年奈良県生まれ。1981年大阪大学工学部卒業、1983年大阪大学大学院工学研究科修士課程修了。1992年大阪大学より博士（工学）を授与される。1983年コマツ

生産技術研究所、1994年大阪産業大学経営学部を経て、2001年甲南大学経営学部に着任。2003年教授となり、2006年から甲南大学フロンティア研究推進機構長、経営学部長、学長

補佐、国際交流センター所長、ビジネス・イノベーション研究所長を歴任後、2014年8月、2020年3月第17代甲南大学学長。研究分野は管理会計、経営情報。著書に『戦略的プロセス・マネジメント―理論と実践―』（共著、税務経理協会）など。

学校法人甲南学園は、甲南大学、甲南高等学校・中学校を擁し、2019年に創立100周年を迎えた。創立者平生夙三郎による教育の理念のもと甲南学園中期計画を確実に推進し、甲南新世紀教育で「人物教育の率先」をさらに進化させていく決意だ。

明治学院大学

村田 玲音

明治学院大学 学長



松原康雄前学長の任期満了に伴い、2020年4月1日付で村田玲音氏が学長に就任した。任期は4年。

村田新学長は、1953年群馬県高崎市生まれ。1975年東京大学理学部数学科卒業、1982年東京都立大学大学院理学研究科数学専攻博士課程を修了、1990年に理学博士。1982年明治学院大学専任講師、1991年同教授、経済学部長や入試担当副学長を務めた。

専門は数学（解析的整数論で、剰余指数・位数の分布が主な研究テーマ）である。文科系総合大学である明治学

院大学にとって、初めての理系出身の学長となった。本学は、幕末に來日した「ヘボン博士」が1863（文久3）年に開設した英学塾「ヘボン塾」が起源である。博士が生涯をかけて実践した《Do for Others（他者への貢献）》を教育理念とし、この伝統を受け継いでいくため、「Global Mind」[Volunteer Spirit] [Career Design]の三つに重点を置いた教育を行っている。異文化を理解し、他者への目配りを忘れず、自分の目標や計画を立てていける人間を育てる、こうした教育を目指している。

南山大学

ロバート・キサラ

南山大学 学長



鳥巢義文前学長の任期満了に伴い、4月1日付でロバート・キサラ人文学部教授が第8代学長に就任した。任期は2023年3月31日まで。

新学長はアメリカ合衆国出身、1957年生まれ。Catholic Theological Union 大学院神学研究科、東京大学大学院人文科学研究科修士課程および博士課程を修了し、M.A. Theology、文学修士、博士（文学）を取得。1995年より南山大学で教鞭を執る。神言修道会日本管区長、総顧問、副総会長などカトリックの各種要職を

歴任した。

専門分野は宗教学・宗教社会学。主な著書は『Prophets of Peace: Pacifism and Cultural Identity in Japan's New Religions』、『宗教的平和思想の研究』、『現代宗教と社会倫理』など。

2021年9月に前身である南山外国語専門学校の創立から75周年を迎える南山大学。「人間の尊厳のために」をモットーに、「ビジョン・キーフレーズである「個の力を、世界の力に。」の実現のために多様な取り組みを実践していく。

## 日本女子大学

しのはら さとこ  
**篠原 聡子**

日本女子大学 学長



2020年5月26日付で学

長に就任した。1958年千葉県生まれ。1983年日本女子大学大学院を修了。その後、一級建築士事務所「空間研究所」を主宰。1997年に日本女子大学に着任してからは、家政学研究所・人間生活学研究所委員長、理事、百二十周年記念事業推進本部建設事務室長などの役職も務めてきた。

専門は建築デザイン、住居計画。2014年には、シェアハウスを設計し、日本建築学会賞(作品)を受賞した。建築作品の設計の他、住居、コミュニティ関連の書籍を数多

く著している。

また、日本建築学会の理事やグッドデザイン賞の審査員を長年務めている。こうした経歴を生かして、地域や企業とも連携した開かれた大学を目指す。

主な建築作品としては、大阪府宮泉大津なぎさ住宅、東金市立嶺南幼稚園、ヌーヴェル赤羽台3、4号棟(B1街区)、SHARERatchoなど。主な著書に、『変わる家族と変わる住まい』(共著)、『住まいの境界を読む』、『多縁社会』(共著)、『おひとりハウス』、『シェアハウス図鑑』(共著)などがある。

## 東北公益文科大学

かんだ なおや  
**神田 直弥**

東北公益文科大学 学長



吉村昇前学長の退任に伴い、4月1日付で神田直弥氏が第5代学長に就任した。

神田新学長は1974年東京都生まれ。2002年早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。早稲田大学人間科学部助手を経た後、2005年に東北公益文科大学講師に就任。2015年に教授に昇任し、2016年から公益学部長を4年間務めた。博士(人間科学)。

専門は交通心理学、人間工学。自動車運転者の認知行動特性や、児童生徒を対象とした交通安全教育手法などが主な研究テーマで、酒田市

内の中学校と連携した取り組みも行っている。

東北公益文科大学は、「地域、そして世界に有為な人材を庄内から」との理念で、2001年に山形県および庄内市町村による公設民営方式で、山形県酒田市に設立された。

新学長は就任にあたり、今後6年間で言う「第3次教学中期計画」を策定。Society5.0やSDGsなど社会の変化を見据えた体系的・組織的な教育やキャンパスの国際化など、学習者中心の大学としてこれまでも推し進めてきたさまざまな教育改革をさらに強化していく。

東洋大学

矢口悦子

東洋大学学長



竹村牧男前学長の任期満了に伴い、2020年4月1日付で矢口悦子文学部教授が学長に就任した。

矢口新学長は1956年秋田県生まれ。1986年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程単位取得退学。1998年博士（人文科学）（お茶の水女子大学）。山脇学園短期大学教授などを経て、2003年東洋大学文学部教授。2013年に同大学社会貢献センター長、2015年に文学部長。専門は社会学・生涯学習論で、主な著書に『イギリス成人教育の思想と制度―背景としてのリベラリ

ズムと責任団体制度―」新耀社、1998年）などがある。

創立者井上田了博士は、人々のために何が出来るかを真摯に追求し、社会教育に生涯を捧げた実践家であった。今後は、哲学館以来の伝統を保持し、さらに夜間部教育（全国の夜間学生の約25%が在籍）を維持しながら、新しい社会課題に挑戦する学部を設置を計画している。教職員一丸となつて、東洋大学の底力を発揮し、日本はもちろんのこと世界の人のために、つまり「他者のために自己を磨き」、大いに貢献する大学であり続けたいと考えている。

山梨英和大学

小野興子

学校法人山梨英和学院理事長



ギッシュ・ジョージ前理事長の任期満了に伴い、4月1日付で小野興子氏が理事長に就任した。

小野興子氏は山梨英和高等学校、聖路加短期大学看護科、山梨大学大学院教育学研究科修士課程で学んだ。長く看護教育に携わり、山梨県立看護短期大学教授・同学部長、山梨県立大学教授、山梨県看護協会副会長等を歴任した。山梨英和中学校・高等学校同窓会長も務め、2003年山梨英和学院理事・事評議員となり現在に至る。終末期看護学の専門家として一時期、山梨英和大学で

も教鞭を執った。

山梨英和学院は、1889年にカナダ・メソジスト婦人宣教会の協力により女学校として創立したキリスト教学校であり、「敬神 愛人 自修」を校訓に神と人とに仕える人格教育を130年間継続し、現在、こども園、中学校、高等学校、大学、大学院を擁している。小野新理事長は、戦後の復興期に宣教師から直接薫陶を受けた卒業生として、山梨英和のスピリットを次代に引き継ぎ、どんな時代にあつても校訓に堅く立つ真に質の高い教育を提供したいと語っている。

獨協大学

山路朝彦  
やまじ あさひこ

獨協大学学長



大井正前学長の任期満了に伴い、山路朝彦副学長・教授が獨協大学学長に就任した。任期は2020年4月1日から2024年3月31日まで。

山路新学長は1953年京都府生まれ。東京外国語大学外国語学部卒業、東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程ゲルマン系言語専攻ドイツ語修了。1981年から2年間ドイツ・ボン大学およびテュービンゲン大学に留学。1986年から獨協大学外国語学部専任講師、2001年に教授となり、その後、学生部長

や教務部長、副学長などを歴任。専門はドイツ文学、ドイツ語教授法。1992年から1998年まで、NHKラジオおよびテレビのドイツ語講座講師を務めた。獨協学園理事。

獨協大学は1964年に創立した4学部11学科を有する文科系総合大学。建学の理念は「大学は学問を通じての人間形成の場である」。

山路新学長は、同大学が2014年に創立50周年を迎えた際に前学長が掲げた「NEXT50」を継承し、改革を進めている。

甲南大学

中井伊都子  
なかい いっこ

甲南大学学長



長坂悦敬前学長の後任として、4月1日付で甲南大学法学部中井伊都子教授が第18代学長に就任した。

中井新学長は1989年京都大学法学部卒業、1991年京都大学大学院法学研究科修士課程修了。1995年神戸大学大学院国際協力研究科助手を経て、1998年甲南大学法学部助教授に就任。2002年教授となり、現在に至る。

2001年から国際交流センター副所長、法学部長、キャリアセンター所長、副学長、スポーツ強化支援室長を歴任している。

研究分野は国際法、国際人権法。主に国連を中心とした国際的な人権保障規範の生成について研究。著書に『国際法入門「第2版」』『共著、法律文化社』など。

学校法人甲南学園は2019年に創立100周年を迎えた。中井新学長は、甲南大学の伝統を生かし、新たな革新を紡ぐべく、さらなる教育力の向上を目指す「甲南新世紀ビジョン2025」の策定に着手しており、共通教育と専門教育のバランスを大切にしながら、「人物教育の甲南大学」としての使命を果たしたいとしている。

聖路加国際大学

ほりうち しげこ  
堀内 成子

聖路加国際大学 学長



福井次矢前学長の任期満了に伴い、4月1日付で聖路加国際大学の学長に就任した。任期は4年。

堀内新学長は1955年新潟県生まれ。聖路加看護大学衛生看護学部卒業、東京大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程修了、聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。聖路加看護大学教授、看護学部長、大学院看護学研究科長を経て現職。研究分野はライフサイエンス／生涯発達看護学／助産学／国際母子保健。

看護界をリードする人材

を育成するために1920年に誕生した聖路加国際病院附属高等看護婦学校「最善を尽くせ、しかも一流であれ」、その志を受け継ぎ本学の看護教育は今年100周年を迎えた。

戸惑いの大きい現在の生活に対し、医療・看護・公衆衛生学を学ぶものとして、病に苦しむ人々への治療とケアを探究し、信頼できる情報の選択、予防活動の啓発等、祈りとともに誠実に行動することを学生に呼びかける。常に現場にあつて話を聞き、意見を交わすその視線の先には聖路加の次の100年が見えている。

私大連 TOPICS

大学時報Webサイトに、新コンテンツ「PICK UP! 大学時報」を開設

毎号コーナーをピックアップした、Web記事を公開しています。

これによりスマートフォンやタブレット端末でもダウンロードすることなく、移動中でも簡単に「大学時報」の記事を読んでもいただけるようになりました。

最新号がお手元に届いた際に、ぜひWebサイトもチェックしてみてください。



大学時報Webサイト「PICK UP! 大学時報」  
<https://daigakujihou.shidaren.or.jp/pickup/>



荒井真(あらいまこと)

フェリス女学院大学学長。'94上智大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。専門は比較法、ヨーロッパ法史、ヨーロッパ大学史。'20より現職。

飯田毅(いいたつよし)

同志社女子大学学長。同大学学芸学部教授。University of Reading 博士課程修了。O.Ph.D.(University of Reading)。'19より現職。専門分野は応用言語学。

上條憲二(かみじょうけんじ)

愛知東邦大学経営学部教授。'76早稲田大学第一文学部社会学専攻課程修了。ブランドコンサルタント会社を経て'14より現職。共著『ブランドینگ7つの原則』など。

日笠完治(ひかさかんじ)

駒澤大学副学長(教育・研究担当)、学長室長。'82慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。'04より駒澤大学大学院法曹養成研究科教授。主著『憲法がわかった』など。

小林浩(こばやしひろ)

リクルート進学総研所長・リクルート『カレッジマネジメント』編集長。'88早稲田大学法学部卒、中央教育審議会質保証システム部会専門委員。

兼高聖雄(かねたかまこと)

日本大学芸術学部教授。'90慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。社会心理学・メディアコミュニケーション論専攻。主著『コミュニケーション学入門』ほか。

出口治明(でぐちらはるあき)

立命館アジア太平洋大学(APU)学長。'72京都大学法学部卒。日本生命、ライフネット生命(創業者)を経て'18より現職。主著『人類5000年史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(ちくま新書)』など。

福原紀彦(ふくはらただひこ)

中央大学学長、法科大学院教授。'84中央大学大学院博士後期課程満期退学。民事法学専攻。私大連常務理事、文科省大学設置・学校法人審議会委員、私学研修福祉社会理事長等。

関口理久子(せきぐちりくこ)

関西大学社会学部教授。'91京都大学大学院文学研究科単位取得退学。主著『やさしいESQで心理学実験』、『心理調査の基礎』。

富田宏治(とみだこうじ)

関西学院大学副学長。同法学部教授。'88名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。名古屋大学助手などを経て、'99より現職。主著『丸山眞男―古層論』の射程。

大西良(おおにしりょう)

筑紫女学院大学人間科学部准教授。博士(保健福祉学)。主な著書『精神保健福祉士のためのスクールソーシャルワーク入門』(へるす出版)(共著)など。

川崎孝明(かわさきたかあき)

筑紫女学院大学人間科学部准教授。博士(アドミニストレーション)。主な著書『貧困のなかにいる子どものソーシャルワーク』(中央法規)(共著)など。

芦沢真五(あざわしんご)

東洋大学国際学部教授。ハーバード大学教育大学院卒。慶應義塾大学、大阪大学等を経て'13より現職。UMAP国際事務局事務次長。東京規約ユネスコアジア太平洋地域会議委員。

内田達也(うちだたつや)

青山学院大学副学長(広報及び将来構想担当)('1912月より現職)。国際政治経済学部国際経済学科教授。博士(国際経済学)(青山学院大学)。

多久和英樹(たかくわひでき)

同志社大学入学センター所長。理工学部教授。京都大学大学院情報学研究科数理工学専攻博士後期課程単位取得退学、京都大学博士(情報学)。専門分野は、数学、偏微分方

程式論、逆問題など。

**石川 さゆり**(いしかわ さゆり)

松山東雲女子大学／短期大学大学事務局次長。松山東雲女子大学／短期大学入試課長。松山東雲短期大学保育科卒業。

**神山 正之**(かみやま まさゆき)

立教大学キャリアセンター事務部長。84年3月立教大学社会学部卒業、16より現職。'19より全国私立大学就職指導研究会会長。

**松本 光眞**(まつもと みつまさ)

京都産業大学進路・就職支援センター課長。'92年3月京都産業大学経営学部卒業。入職後、入試、教学、総務部門を経て、'19年4月より現職。

**友金 孝夫**(ともかね たかお)

早稲田大学総務部長。'90年早稲田大学第二文学部卒業。戸山総合事務センター総務。入試担当課長、総長室校友課長、総務部総務課長、総務部副部長を経て、'19年6月より現職。

**青木 清**(あおき きよ)

南山大学副学長。同法学部教授。82年名古屋大学大学院法学研究科博士課程退学。法学修士。中部大学を経て、'92より南山大学。主著『韓国国家法―伝統と近代の相剋』など。

**山田 健太**(やまだ けんた)

専修大学文学部(ジャーナリズム学科)教授。'84年青山学院大学卒業。専門は言論法、ジャーナリズム研究。近著『沖繩報道』見張塔からずっと『放送法と権力』。

**柳谷 孝**(やなぎや たかし)

学校法人明治大学理事長。'75年明治大学文学部卒業、野村證券入社。'97年取締役、'02年代表取締役専務取締役、'06年副社長、'08年副会長を経て、'16年5月より現職。

**圓月 勝博**(えんげつ かつひろ)

同志社大学文学部教授。'82年同志社大学大学院文学研究科博士前期課程修了。修士(英文学専攻)。'95より現職。主著『学生職員と創る大学教育』(共著)など。

**吉本 隆哉**(よしもと たかや)

皇學館大学教育学部助教。'13年鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程修了。博士(体育学)。鹿屋体育大学研究員、国立スポーツ科学センター研究員を経て、'19より現職。

**佐道 明広**(さどう あきひろ)

中央大学国際学部長。'89年都立大学大学院博士課程単位取得退学。博士(政治学)。政策研究院などを経て、'05年中央大学教授。著書『戦後日本の防衛と政治』など。

**奥平 晋**(おくひら すすむ)

中央大学広報室大学史資料課嘱託職員。同法学部兼任講師。立教大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。論考『占領期皇室財産処理の基礎的考察』他。

**瀬戸 口龍**(せとくち りゅういち)

専修大学文学部史資料室長。'03年専修大学大学院文学研究科博士課程退学。日本近世・近代史専攻。共著『専修大学の歴史』『埋もれし近代日本の経済学者たち』ほか。

**大久保 英男**(おおくぼ ひでお)

昭和女子大学昭和リエゾンセンター係長。創立100周年事業企画委員会委員。

**水野 正人**(みずの まさと)

ミズノ株式会社相談役会長。甲南大学、カーセ、ジ大学卒業。'88より社長を務め、'06年に代表取締役会長。I・O・C総会最終プレゼンでスピーチを行い五輪招致を実現させた。

**外川 智恵**(とがわち え)

大正大学表現学部准教授。大正大学文学部、カリフォルニア臨床心理大学院卒。'92年梨放送入社。'01よりフリーとして活動。『N・T・T技術ジャーナル』のトップインテビューなどを務める。

(お断り)本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

## 会長の動き

- **5月12日(火)**  
第1回常務理事会・第1回理事会に出席(オンライン開催)
- **5月18日(月)**  
国公私立大学各団体の会長や役員とともに、萩生田文部科学大臣に「新型コロナウイルス感染症に対応した学生への経済的支援に関する緊急要望」を手交しました。
- ▼ 資料は、次ページの私大連Webサイトをご覧ください。
- **5月21日(木)**  
日本経済団体連合会「採用と大学教育の未来に関する産学協議会 幹事会」に出席(オンライン開催)
- **5月22日(金)**  
正副会長会議(拡大)に出席(オンライン開催)
- **6月8日(月)**  
記者懇談会に出席
- **6月9日(火)**  
第2回常務理事会・第2回理事会に出席(オンライン開催)
- **7月13日(月)**  
萩生田文部科学大臣に新型コロナウイルス感染症の影響に伴うオンライン授業の規制緩和、留学生の出入国緩和等

## の要望書を手交

尾身外務大臣政務官に留学生の出入国緩和等の要望書を手交

● **7月15日(水)**

義家法務副大臣に留学生の出入国緩和等の要望書を手交

主要国会議員に私立大学の理工分野に関する要望書を手交

● **7月21日(火)**

第3回常務理事会・第3回理事会に出席(オンライン開催)

● **7月31日(金)**

全私学連合「拡大会長会議」に出席

● **8月7日(金)**

全私学連合「私学振興協議会」に出席  
令和3年度私学関係政府予算について、とくに新型コロナウイルスに関する要望

を説明、国会議員の理解を求めました。

● **8月26日(水)**

全私学連合「拡大会長会議」に出席  
私立の幼稚園から大学までの令和3年度私学関係政府予算に関する要望をと

りまとめました。

## 新型コロナウイルスに関する政策パッケージのとりまとめ・公表



6月8日に行われた記者懇談会にて開会挨拶をする長谷山会長および記者懇談会場の様子



私大連では、いち早く、新型コロナウイルスの影響による困窮学生や大学のオンライン授業等の支援について国へ要望してきました。このたび、これらの要望を含め、改めて学生の学びの保障を主張することにも、ICTを活用した私立大学の新方針を提示、それに伴う規制緩和について政策パッケージとしてとりまとめました。

6月8日、この私立大学の考えを広く社会にも発信するため、記者懇談会を開催し、マスコミの方々と活発な意見交換を行いました。また、その後、長谷山会長、眸

道副会長、田中優子常務理事が文部科学省の伯井高等教育局長と面会し、私立大学の主張を説明し、理解を求めました。

▼資料は、下記の私大連Webサイトをご覧ください。

受験生への会長メッセージを発信

令和3年度の大学入学者選抜の受験生に向けて、私大連の加盟大学を代表し会長からメッセージを発信しました。

▼資料は、下記の私大連Webサイトをご覧ください。

新型コロナウイルスの影響に伴うオンライン授業の規制緩和、留学生の出入国等の緩和を要望

私大連では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴うグローバル化対応への要望をまとめ、7月13日に、長谷山会長、曄道副会長が萩生田文部科学大臣に手交しました。大学のグローバル化を推進するため、喫緊の課題として、(1)オンライン授業の単位数上限60単位の緩和、(2)留学生等に関する入国等の緩和などを要望しています。

また、留学生等に関する入国等の緩和については、外務省の尾身大臣政務官、法務省の義家副大臣に長谷山会長、曄道副会

長から大学の国際化の重要性を説明し、いち早い入国の緩和等を要望しました。

▼資料は、下記の私大連Webサイトをご覧ください。

令和2年度ウェブ財務・人事担当理事者会議開催報告

6月30日(火)～7月3日(金)の期間に、オンラインにて開催。51法人75人の皆様にご参加いただきました。財務および人事の観点から、各加盟法人のコロナ禍対応の現状や課題とされている点等を出し合い、参加者間で意見交換・情報共有を行いました。

国際連携委員会「新型コロナウイルスの影響下における諸対応」とりまとめ

国際連携委員会では、オンライン会議において、委員校における国際教育や留学（派遣・受入）等の状況について情報交換を行い、その概要を「新型コロナウイルスの影響下における諸対応」とりまとめ、7月20日付で加盟大学向けに私大連Webサイトにて公表しました。

▼資料は、下記の私大連Webサイトをご覧ください。



私大連Webサイトに  
新型コロナウイルス感染症に  
関する情報を公開

<https://www.shidairen.or.jp/>





University Current Review

# 大学時報

奇数月 20 日 (年 6 回) 刊行

Web サイトにて、  
全文無料公開中

※第301号  
(2005年3月発行)から

詳細は

<https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



## 第389号

(2019年11月発行)



【特集】

東京2020オリンピック・パラリンピック  
競技大会開催と連携した大学の取り組み

【座談会】大学広報紙の課題と展望

【インタビュー】阿部 賀寿男氏(株式会社阿部蒲  
鉦店 代表取締役社長)

## 第390号

(2020年1月発行)



【特集】

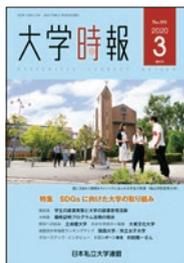
学生食堂の課題と  
今後のあり方

【座談会】変わりゆくオープンキャンパスのあり方

【インタビュー】塚田 真希氏(東海大学体育学部講師、  
全日本柔道連盟全日本強化スタッフ・女子コーチ)

## 第391号

(2020年3月発行)



【特集】

SDGsに向けた  
大学の取り組み

【座談会】学生の読書実態と大学の読書啓発活動

【インタビュー】村田 陽一氏(トロンボーン奏者)

## 第392号

(2020年5月発行)



【特集】

大学間による  
学生交流(国内留学制度)の  
現状と課題

座談会・小特集運動企画

## 「コロナ禍における学生の心のケア」

特集

## 「大学ボランティアセンターの役割」

だいがくのたから

大学点描

クローズアップ・インタビュー

東邦大学

豊田工業大学

高倉麻子さん(プロサッカー指導者)

### 編集後記

◆今年1月下旬に、国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が発見されて以降、このウイルスの急速な感染の拡大は、私たちの社会生活に劇的な影響をもたらすこととなった。大学も例外ではなく、多くの大学で、卒業式、入学式の中止を余儀なくされたばかりか、新年度開始早々に政府から発出された緊急事態宣言によって、大学は、新学期の開始時期の見直しと、講義のオンライン化への対応を迫られた。

もちろんこのコロナ禍は、「大学時報」の編集にも、大打撃を与えることになる。すでに編集の準備を進めていた393号、394号は、急遽、合併号として発行することを決めるとともに、その編集内容は、日本の大学が直面する最大の課題となった新型コロナウイルスの感染拡大防止のためどのような対応をしているのか、その実際を取りまとめることとした。それが本誌特集の「コロナ禍における大学の取り組み」である。

ちなみに合併号による発刊は、2011年の東日本大震災直後の編集作業となった338・339合併号以来となる。この338・339合併号が、「震災をこえて」という特集を組ん

で、大学の震災への対応の実際を報告いただいたように、今回の合併号においても、それぞれの大学がコロナ禍とどう向き合っているのかについて、カリキュラム対応、学生支援、留学生の受け入れ送り出し、入試、就職支援、そして、秋以降の取り組みといった切り口から、各大学の実情を率直にご報告いただいた。

この編集後記を書いている8月中旬においても、日本列島で新型コロナウイルスは、いまだに猛威を振るい続けており、感染者数も全国的に増加傾向にある。

ただ、この新型コロナウイルスの猛威は、それぞれの地域の事情や大学の置かれた環境によっても異なるようだ。そのような状況を睨みながら、各大学では、連日、難しい判断を求められている。すでにこの秋学期もオンラインによる授業を基本とするとの方針を示した大学も多い。その意味で本特集は、個別の事例を列挙した現状報告ではあるが、その記録は、明日以降の対応を考えるヒントが詰まっていると思う。(広報情報委員会大学時報分科会委員長・上智大学文学部教授 音好宏)

◆2020年の夏。1年前誰もが「こうなる」と予想していた姿とは異なるものとなっている。

クローズアップ・インタビューでは、招致活動を成功に導いた立役者の一人、水野正人さんにお話を伺う機会を得た。この状況を「ポジティブに受け止め」、しなやかに、おおらかに事態に向き合うリーダーが語る姿が印象に残る。その姿は、「小さな勝ちを積み上げていく」ことの先にある、「俯瞰力」「人間力」に通じるものと強く感じる。

座談会では大学のボランティアをテーマにご出席の皆さんの熱い思いに触れる時間となった。大学、学生にはそれぞれきらりと光るものがある——ボランティアにおいては、これを学生に「伝わる」ストーリーとすること、関係者で「共有する」こと、ストーリーが伝わり「共感」した学生と、入学後それぞれの学生のストーリーを共に作っていくことの重要性が共有された。

この状況下に、多くの示唆に富むお話しに満ちた企画となった。(日本私立大学連盟事務局 加賀崎奈美)

# 一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覽

※ 大学名ABC順 / ※ }は同一学校法人 (125大学 令和2年9月20日現在)

愛知大学	金沢星稜大学	南山大学	園田学園女子大学
亜細亜大学	関西学院大学	日本女子大学	大正大学
青山学院大学	関西学院大学	日本女子大学	拓殖大学
跡見学園女子大学	関東学院大学	ノートルダム清心女子大学	天理大学
梅花女子大学	関東学院大学	大阪学院大学	東邦大学
文教大学	慶應義塾大学	大阪医科大学}	東北学院大学
筑紫学園大学	恵泉女子学園大学	大阪薬科大学}	東北公益文科大学
筑波大学	敬和学園大学	大阪女学院大学	東海大学
中央大学	神戸女学院大学	大谷大学	常磐大学
大東文化大学	神戸海星女子学院大学	追手門学院大学	東京医療保健大学
獨協大学	皇學館大学	立教大学	東京女子大学
獨協医科大学}	國學院大学	立正大学	東京女子医科大学
姫路獨協大学}	國際武道大学	立命館大学}	東京経済大学
同志社大学}	國際基督教大学	立命館アジア太平洋大学}	東京農業大学}
同志社女子大学}	駒澤大学	龍谷大学	東京情報大学}
フェリス学院大学	甲南大学	流通科学大学	東京歯科大学
福岡大学	久留米大学	流通経済大学	東洋大学
福岡女学院大学}	共立女子大学	西武文理大学	東洋英和女学院大学
福岡女学院看護大学}	京都産業大学	聖学院大学	東洋学園大学
学習院大学}	京都精華大学	成城大学	豊田工業大学
学習院女子大学}	京都橘大学	聖カタリナ大学	津田塾大学
白鷺大学	九州産業大学	成蹊大学	和光大学
阪南大学	松山大学	西南学院大学	早稲田大学
広島女学院大学	松山東雲女子大学	聖路加国際大学	山梨英和大学
広島修道大学	明治大学	清泉女子大学	四日市大学}
法政大学	明治学院大学	聖心女子大学	四日市看護医療大学}
兵庫医科大学}	宮城学院女子大学	専修大学}	
兵庫医療大学}	桃山学院大学}	石巻専修大学}	
実践女子大学}	桃山学院教育大学}	芝浦工業大学	
智大}	武蔵大学	白百合女子大学}	
上智大学}	武蔵野大学	仙台北百合女子大学}	
城西国際大学}	武蔵野美術大学	昭和女子大学	
順天堂大学	名古屋学院大学	創価大学	

## 大学時報

University Current Review

2020/7-9月合併号

第69巻393-394号(通巻407号)

令和2年9月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 松岡敬(同志社大学前学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館

電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363

<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20

明治安田生命大阪梅田ビル3階

〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9

KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)

小島隆久(同志社女子大学広報部広報室長)

須藤智徳(法政大学多摩事務課主任)

中山映(上智大学総務局SGU事業推進室長)

依藤康正(関西大学総合企画室広報課長)

永野誠(関西学院大学高大接続センター入試課長)

田上雅徳(慶應義塾大学法学部教授)

兼高聖雄(日本大学芸術学部教授)

長野香(立教学院広報室長)

青柳祐(立命館大学総合企画部広報課長)

山田健太(専修大学文学部教授)

長野留三子(大正大学総合政策部広報課長)

鈴木宏隆(早稲田大学広報室長)

齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)

加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)

権藤和代(日本私立大学連盟事務局)

